

## 会議録

会議の名称	令和2年度 第2回公民館運営審議会		
開催日時	令和3年 3月 24日(水) 午後2時～4時		
開催場所	市役所5階 5-3会議室		
出席者	佐々木委員長、木村副委員長、吉泉委員、柳下委員、佐藤委員、那須委員、赤木委員、中澤委員、岩本委員、松岡委員、飯田委員、梶原委員 以上12人 (欠席3人)		
事務局	教育部生涯学習課 松崎課長、座間市公民館(以下、座公) 山頭館長、北地区文化センター(以下、北文) 清水館長、東地区文化センター(以下、東文) 岡田館長		
会議の公開可否	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開	傍聴者数	0人
非公開又は一部公開とした理由	—		
議題	1 令和2年度 事業評価について(北文、東文) 2 各館の年間事業計画について 3 コロナ感染症緊急事態宣言解除後の3公民館対応について 4 その他 令和3年度全国・県公民館連絡協議会関係事業予定について		
資料の名称	1 本審議会についての会議次第 2 事業評価シート(北文)(東文) 3 各館の令和3年度年間事業計画 4 新型コロナウイルス感染症に伴う公共施設の対応(抜粋) 5 令和3年度公民館運営審議会委員年間スケジュール		
会議の結果			
議題1	資料2に基づき報告(北文、東文)		
議題2	資料3に基づき報告		
議題3	資料4に基づき報告		
議題4	資料5に基づき報告		
議事の概要			
事務局	令和2年度 第2回公民館運営審議会を開催する。		
委員長	次第に沿って議題を進めていきます。まず議題1について北文から願		

	いします。
事務局	北文館長より資料2に基づき報告
委員長	質問はあるか
委員	考古学の講師はだれか
事務局	市職員の市史文化財担当佐柄主事です。担当して2年程度間もなく今回初講師をしてもらった。
委員	書道は?
事務局	公民館などで活動している清水先生に依頼した
委員	募集方法については、人数制限などしているか
事務局	通常ですと広報やホームページなどで全講座受講できる方を募集していたが、コロナ渦で密にならないように、全講座受講での募集ではなく、1講座単位で都度募集を行った。(毎回参加する人が変わる)
委員長	他にあるか?特になければ、北文の報告は以上とし、続いて東文の報告をお願いします。
事務局	東文館長より資料2に基づき報告。併せて、今回パネラーとして参加して頂いた委員長からも公運審の立場で感想をいただいておりますため、併せて委員長からもご報告させていただきます。
委員長	資料2の委員長資料に基づき報告。大きく分けて2つ「コロナ渦で公民館の役割はどう変化したか」「これからの対策と課題をどう考えるのか」詳細は資料の通り。 その中で、例えば「あすなる大学」にしても、200人の受講生に対し、人数制限を設けて実施すると、半分以上が受講できなくなる。先ほどの北文でも募集制限について質問があったが、受講できなくなった人に対しての「学びの場の提供」をどう考えていくのか。 一例をあげれば、ZOOMなどを使ってのオンライン講座を導入したら受講できなくなった人の救済ができるのではないかと。 あるいは、利用申し込みも電子化にしたらどうか。密になることが防げるのでは・・・など、システム開発などの費用的な問題もあるかもしれないが、今すぐではなくとも今後、公運審全体会議などの場で検討してほしい。他に質問はあるか?
委員	参加者の偏りはどんな感じか?
事務局	一般の参加者もおりましたが、サークルの利用者が約8割程度かと思えます。 年齢層はいかがか?

委員	<p>割と年配が多い感じにお見受けしました。</p> <p>40周年事業については、事前にサークル利用者にアンケートを取っており、結果として半数程度が実施の意向があつて、その中でも、みんなで楽しめるものを作ってほしいという意見があつた。40周年事業として記念コンサートも実施した。本来であれば、実行委員会形式で実施したかったところ、手を挙げてもらえず、文化祭もできず、最終的には館主導となってしまったことが残念でしたが、記念コンサートも午前一般参加50人、午後サークル団体50人が観覧し、コンサートについては、座公職員が応援に来てもらい、こちらも成功裏に実施できたことを併せてこの場で報告いたします。</p>
委員長	<p>パネルディスカッションは、パネラーと参加者とのやり取りが難しい。また、質問もサークル活動を続けてよいのかどうなのか?という質問になってしまうこともあり、コーディネーターと司会がどう仕切っていくか?想定Q&amp;Aを作成してもその通りに行かなかつた部分もあつたが何とか無事に終えることができたと思います。ほかに何か質問はあるか?</p>
事務局	<p>委員長より先ほど意見がありましたzoom等のオンラインについては、今回、座公が評価事業対象としている。「親と子が共に育つ教室と」「婚活講座」で講師がホストになってもらい実施した。その中で、個人情報に関して気にする受講者がいたが、それについては、特に影響はなく、PWを入力して行うシステムのため、個人情報については流れる心配はない。</p> <p>ただ、対象者が若いメンバーでさえ画面が映っていなかったり、声が出なかったりスムーズにいかなかった。</p> <p>そのため、グループで会話したり、講師が指示して対応した。ただ、最後の方は慣れてきた様子だった。</p>
委員長	<p>公民館が一事業者としてホストになれないか?</p>
課長	<p>情報セキュリティー上、役所自体が許可されていないため、現状ではホストにはなれません。</p>
委員長	<p>いろいろ課題はあるかもしれないが、今後検討してほしいと思う。</p> <p>続いて議題2について、3館からの報告をお願いします。</p>
事務局	<p>資料3に基づき座公の事業計画を座公館長より報告。</p> <p>スマホ講座を新規で実施する予定。例年実施しているしめ飾り教室は講師の方が高齢などの理由で実施できなくなった。他は特に大きな変</p>

更はありません。

委員

公民館まつりは実施するのか?

事務局

3月26日の会議にて実施の可否判断をする。

委員長

続いて北文お願いします。

事務局

資料3に基づき北文の事業計画を北文館長より報告。

事務局

前年度と比較して違うところは、音楽サロンという名称でやっていたがコロナ渦でたくさんの方が来るため、密が避けられず音楽講座という形で人数制限をしたうえで実施する方向で計画している。

その他、親子料理講座については父親の参加も募って実施を検討、また、クリスマスジャズという名称で大人のためのクリスマス会みたいなイベントを計画している。また、座公のリモート講座についても指導員が見学し実施に向けて研究している状況。以上です。

委員長

続いて東文お願いします。

事務局

資料3に基づき東文の事業計画を東文館長より報告。

全体的には、予算が厳しいため、事業の精査させてもらった。

委員長

料理講座については、料理系のサークルが活動されていない状況から、今年度はほかの館の様子を見て次年度に向け検討していきたい。

委員

事務局

その他は、令和2年度に映画会実施したところ好評であったことから、令和3年度も定期的実施していきたい。また、親子向けの講座として、コロナ渦で家で過ごすことが多いことから、ボードゲームを楽しむ講座やペットボトルロケットを作り、学校の校庭で飛ばす事業などを計画している。以上です。

委員長

予算の件で厳しいとのことであるが、3館の事業計画の予算は通る見込みか?

課長

3月議会の最終日において要望した事業内容の予算については可決されました。

委員長

了解した。事業計画については、以上でよろしいか?続いて、議題3について事務局から報告をお願いします。

事務局

資料4に基づき説明した。4月以降については、状況を見た上で、決定次第、館内掲示板、HPなどで周知していきます。以上です。

委員長

特に何かあるか?特になければ、議題4について事務局よりお願いします。

事務局

資料5に基づき報告。特に全国公民館研究集会については令和3年度は山梨県で実施予定だか、先の予算査定の結果、今回は見送りとなったこ

	<p>とについて了承いただきたい。次年度以降については、予算要望していきたい。以上です。</p>
委員長	<p>特に何かあるか?特になければ、松岡委員から図書館運営委員会からの報告があるため委員からお願いします。</p>
委員	<p>図書館運営委員会からの令和2年度の活動内容について以下の通り報告。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和2年度は全部で3回会議を実施した。</li> <li>2 子供向けの事業がほとんど中止となった。(12月のクリスマスおはなし会のみ実施。13人参加)</li> <li>3 9月から電子図書館が開館となった。冊数は3月時点で2240冊。</li> <li>4 「本と旅する子どもの未来」をテーマに第三次座間市子ども読書活動推進計画が3月に策定された。 以上です</li> </ol>
委員長	<p>電子図書とはどんなものか?</p>
事務局	<p>図書館に行かずとも、PCやスマートフォンで本が閲覧できるシステムのことです。貸出券とPWがあれば、インターネット上から貸し借りができます。</p>
委員長	<p>他に何かあれば、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>令和3年度の事業評価についてですが、令和2年度はコロナ渦で事業がなかなかできず、1事業のみ観覧し、事業評価をしてもらったが、今年度につきましては、まだ、コロナの見通しが不透明であることと、各自の感染防止の観点から令和3年度についても1事業でお願いできないか?</p>
委員	<p>特に異議なし。</p>
委員長	<p>令和3年度については各館1事業を評価することといたします。</p> <p>令和2年度の全体会議は今回で終わりであるが、令和3年度の第1回目の会議はいつごろを予定しているか?</p>
事務局	<p>年度替わりになり、学校の校長先生の人事異動があるため、また、館長が替わることも決定しているため、年度変わって新しい先生が決まった後、6月くらいを想定している。決まり次第、各委員方へお知らせいたします。</p>
委員長	<p>了解しました。それでは、以上もちまして、会議を終了いたします。</p>

令和 2 年度 第 2 回公民館運営審議会委員会全体会議次第

と き 令和 3 年 3 月 24 日(水)

午後 2 時～4 時

ところ 座間市役所 5-3 会議室

1 あいさつ

2 議 題

1) 令和 2 年度 事業評価について(北文、東文)

2) 各館の年間事業計画について

3) コロナ感染症緊急事態宣言解除後の 3 公民館対応について

4)その他

令和 3 年度 全国・県公民館連絡協議会関係事業予定について

# 令和 2 年度 座間市立公民館事業評価シート

公民館名	記入者
北地区文化センター	吉野

事業名	いきいき学級	事業担当 職員数	2	予算額	60	千円
				実施額	40	

## 1. 生涯学習プランの位置づけ

基本方針	(6)高齢社会の生きがいや障がい者対応する生涯学習の推進
基本施策	①高齢社会に対応した学習方法の開発と実践

## 2. 事業の概要

対象(誰を・何を)	期日	定員
高齢者	①令和2年11月13日(金) ②令和2年11月27日(金) ③令和2年12月11日(金)	①15人 ②10人 ③15人
目的(対象者がどのようになることを目指しますか)		
高齢者を対象に講座を行い新しい体験・知識を得て生活の充実を目的とする。		
内容		
①『考古学にふれてみよう～座間の遺跡からわかること～』 考古学について学ぶ入門講座。座間の遺跡発掘調査で出土した土器の観察や解説等を行った。 ②『書道を楽しむ』 書道の入門講座、字の成り立ち、書き方についての話や筆を使った実技指導などを行った。 ③『冬を彩る寄せ植え体験』 冬の花の紹介やそれを使った寄せ植えを体験した。		

## 3. 事業の実績

活動指標	実績値			備考
	前々年度	前年度	今年度	
① 講座等の回数	5	5	3	今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、回数減
② 応募率(%) (申込者数/定員)	100%(20/20)	60%(12/20)	90%(36/40) ①100%(15/15) ②60%(6/10) ③100%(15/15)	今年度は各回ごとに申し込みを受けつけた。
③ 回ごとの出席率(%) (受講者数/出席者数)	80%(80/100) ①90%(18/20) ②90%(18/20) ③80%(16/20) ④60%(12/20) ⑤80%(16/20)	88.3%(53/60) ①100%(12/12) ②83.3%(10/12) ③91.6%(11/12) ④83.3%(10/12) ⑤83.3%(10/12)	88.8%(32/36) ①73.3%(11/15) ②100%(6/6) ③100%(15/15)	
アンケート結果による受講者の感想等				
①「熱心に教えていただきありがとうございました。」「座間市内にこんなに多く遺跡があるとは思いませんでした。毎年講座をしてください。」「自分が住んでいる土地の歴史を学ぶことが出来た。」など ②「楽しい時間をありがとうございました。」「とっても楽しく学びました。」「色々お勉強させていただきました。」「大変勉強になりました。先生のお話は実にお上手でした。」 ③「素敵な寄せ植えが出来ました。」「大変参考になり、実技でより分かった。」「寄せ植えについて新しい知識が覚えられたので良かったです。」「講師の先生のお話がわかりやすく大変参考になりました。自分でもまた挑戦してみたいと思います。」など				

#### 4. 事業の評価

##### (1) 内部評価 (担当館)

評価	評価の観点	評価		コメント
		Yes ← 5	No 3 1 →	
必要性・有効性	①この事業は現在の社会情勢に合っているか	⊙		高齢化が進む社会で同年代が集まると分かっていることが、講座参加への心理的ハードルを下げるものと考え。学びの面でも内容のバリエーションがあり興味を引くものだと思う。
	②市民のニーズに応えているか	⊙		
	③公民館の事業としてふさわしいか	⊙		
	④事業の参加者に偏りがいないか	⊙		
効率性	①成果を低下させず、コストを削減することができているか	⊙		定員数を満たすような魅力のある講座の企画をしていきたい。
	②事業費や所要時間は適切であるか	⊙		
公平性	①本事業による利益が特定の団体や個人に偏っていないか	⊙		講師の選定を行っているため利益の偏りはない。必要な材料費等については受講者から負担をしてもらっているため、妥当であると言える。
	②市民の理解を得られる事業であるか	⊙		
	③受益者負担は今のままで良いか	⊙		
評価区分(評価点)	5⇒適切・できる・ある 3⇒概ね適切・妥当 1⇒不適切・できない・ない			

##### (2) 公民館運営審議会委員の評価

項目	評価の観点	評価		理由
		Yes ← 5	No 3 1 →	
必要性・有効性	①この事業は現在の社会情勢に合っているか	⊙		3つの講座で高齢者が興味を引く内容でバラエティにとんでいて市民のニーズに応え、日常生活で役に立つテーマで知らないこと知れている。
	②市民のニーズに応えているか	⊙		
	③公民館の事業としてふさわしいか	⊙		
	④事業の参加者に偏りがいないか	⊙		
企画内容	①参加者が関心を持って参加していたか	⊙		参加者の方は熱心に質問したり写真を撮ったりと関心が高く、講座に参加していた。作業を共同で行うことで参加者同士のコミュニケーションが取れているのがわかった。
	②講師は事業内容に合っていたか	⊙		
	③参考資料・材料などが適切であったか	⊙		
	④継続事業において運営が工夫改善されているか	⊙		
事業成果	①参加者は十分な成果をえたか	⊙		先生方の指導やお話が分かり易く好感が持てました。知らなかった部分がわかり、良い内容だと思う。今後の状況が許せば講座によって数回のコースがあるとより学べると思う。自分も知らないことが詳しくわかって勉強になった。
	②出席率は良かったか	⊙		
	③事業の目的が達成されたか	⊙		
	④この事業内容は見直さなくて良いか	⊙		
評価	5⇒適切、よい 3⇒概ね適切、妥当 1⇒わるい			

##### (3) 公民館運営審議会委員の意見

評価結果=B	A⇒このまま継続して良い B⇒一部見直しをする C⇒大幅に見直しをする
連続参加ではなく、興味のある所に参加できたのはトータル的には多くの方に提供できる企画だったと思う。内容によって、時間が足りないものもあったと思う。どの講座も楽しく学ぶことが出来ました。テーブルごとに作業をする講座は声が聞き取りにくいものもあったので位置を工夫しても良いと思います。	

1) 評価の観点を《良い》とされることを仮定して項目を設ける(内容は検討)

2) 評価点は数直線上に○を付す⇒左寄りならば「良いと評価」、右寄りならば事業について再考すべき



# 令和2年度 座間市立公民館事業評価シート

公民館名	記入者
東地区文化センター	主事 植松賢也

事業名	パネルディスカッション コロナ感染症災禍の東地区文化センターを考 える	事業担当 職員数	1	予算額	50	千 円
	実施額			123		

## 1.生涯学習プランの位置づけ

基本方針	(3)現代的課題に対応した生涯学習の推進
基本施策	①現代的課題に対応する学習機会の充実

## 2. 事業の概要

対象(誰を・何を)	期日	定員
公民館利用者・学習文化活 動に関心のある方 ほか	令和3年3月14日 午後1時30分～4時	40

目的(対象者がどのようなことを目指しますか)

東地区文化センター創立40周年を迎え、コロナ禍においての今後の公民館での学習活動についてのさまざまなテーマを基にパネルディスカッションを通じて考える。

内容

今年度開館40周年を迎えた東地区文化センターでは、このパネルディスカッションを契機に、「ポストコロナ感染症」の新しい生活、これからの社会を皆さんとともに歩む事業と学習・文化、福祉活動の支援の在り方を考えることを目的に、アンケート(12月26日～1月22日、詳細は「アンケートまとめ」に記述)を実施し、その集計結果をふまえてパネルディスカッションを行った。

パネルディスカッション テーマ(事業名称のとおり)

パネラー ①市公民館運営審議会委員長 佐々木邦彦さん(サークル利用者の立場から)

②東原地区社協「青空サロン」担当 香西伸一さん(文化センターの地域連携事業、その後の自主的な市民活動について)

③社会福祉法人慈湧会業務執行理事(緑の家)草間幸子さん(障害者福祉施設や活動と文化センターの係わり。コロナ禍で利用者“障害者”の置かれた状況について)

④元毎日新聞社記者 長谷川孝さん(長期に亘り公民館講師で当市公民館に関わる立場と、他市での教育、社会教育を考える社会活動に参加する立場から、公教育の公平性とコロナウイルス感染症に関する理解の学習の必要性について)

課題提起をいただき、参加者とともに議論を深めた。最後に司会(大串社会教育委員会議議長)より、文化センター・教育行政の今後の課題として2点にまとめられた。

・集団学習(コミュニティ形成)の支援として、サークル活動の振興、事業(講座)のアウトプットの可能性を検討する。

・学習の自由(学びたいときに学ぶことのできる教育環境)を、オールタナティブ(障害や不応への配慮)な視点で学習弱者の視点から見ることの必要性が指摘された。

## 3. 事業の実績

活動指標	実績値			備考
	前々年度	前年度	今年度	
① 講座等の回数	—	—	1	
② 応募率(%) (申込者数/定員)	—	—	21/40	
③ 回ごとの出席率(%) (受講者数/出席者数)	—	—	—	

アンケート結果による受講者の感想等

--

4. 事業の評価

(1) 内部評価 (担当館)

評価	評価の観点	評価		コメント
		Yes ← 5 3 1 → No		
必要性・有効性	①この事業は現在の社会情勢に合っているか	○		コロナ禍でのセンター40周年に掛けた企画のため、参加対象を公民館利用者を主に行った。準備会での事業趣旨の共有過程が有意義なものになった。半面参加者が限定的になったことが反省される。
	②市民のニーズに応えているか	○		
	③公民館の事業としてふさわしいか	○		
	④事業の参加者に偏りがいないか	○		
効率性	①成果を低下させず、コストを削減することができているか	○		難しいテーマに取り組んだが、コロナ禍のため時間をかけて取り組むことができた。
	②事業費や所要時間は適切であるか	○		
公平性	①本事業による利益が特定の団体や個人に偏っていないか	○		事業のパネラーには、館外事業、社会活動に関わる方を迎え、地域課題、社会教育の課題をテーマにできた点から公平性が意識されたと考える。
	②市民の理解を得られる事業であるか	○		
	③受益者負担は今のままで良いか	○		
評価区分(評価点)	5⇒適切・できる・ある    3⇒概ね適切・妥当    1⇒不適切・できない・ない			

(2) 公民館運営審議会委員の評価

項目	評価の観点	評価		理由
		Yes ← 5 3 1 → No		
必要性・有効性	①この事業は現在の社会情勢に合っているか	○		<b>別掲</b>
	②市民のニーズに応えているか	○		
	③公民館の事業としてふさわしいか	○		
	④事業の参加者に偏りがいないか	○		
企画内容	①参加者が関心を持って参加していたか	○		
	②講師は事業内容に合っていたか	○		
	③参考資料・材料などが適切であったか	○		
	④継続事業において運営が工夫改善されているか	該当なし		
事業成果	①参加者は十分な成果をえたか	○		
	②出席率は良かったか	○		
	③事業の目的が達成されたか	○		
	④この事業内容は見直さなくて良いか	○		
評価	5⇒適切、よい    3⇒概ね適切、妥当    1⇒わるい			

(3) 公民館運営審議会委員の意見

評価結果 = B    A⇒このまま継続して良い    B⇒一部見直しをする    C⇒大幅に見直しをする
<b>別掲</b>

項目	公運審 A	公運審 B	公運審 C
必要性・有効性	コロナ禍の中での公民館の役割なり対応を考えるなどの観点で時機を得たテーマだと思う。人数制限などの中で、公民館の役割が十分に発揮できないという制約に、どのように答えるかというかなり本質的な問題提起だったとおもう。	コロナで今まで当たり前のように集まって活動してきたことが出来なくなった。公民館の存在意義を感じたので事業としてふざわしいと思った。	公民館としては、昨年からコロナで対策を考える1年になり、この時に意義ある事業だと思う。
企画内容	ディスカッションの材料となるアンケート集約は参考資料としてよくまとまっていた。ファシリテーターも難しいテーマの中、うまく司会進行してくれたとおもう。聴講者の関心程度にもよるが聴講者とパネラーとのコネクトが課題かもしれない。	-	館の利用者も不安の中、サークル活動を続けているので、アンケート結果は参考になると思う。
事業成果	参加者が議論の深みにどれだけ理解をいただいたかは疑問に思う。今回のテーマは公民館に対するコロナ禍の中での市民の期待役割がどのようなところにあるのかを学びたかったのかを知りたかったが、そのような発言はなかったので若干寂しかった面もある。	-	人数制限を考えると一部の方達のみの参加になると思われたが、多方面の方が参加されていて成果はあったと思う。
公運審の意見	そもそも開館40周年記念事業を契機に企画された事業であり、またコロナ禍という非常事態における公民館のあり方を考えるというテーマであったので、その継続性の評価は難しいが、パネルディスカッションそのものを事業として継続することは意味があると思う。ただ、進行役のファシリテーターは難しい役割だと感じた。パネラーと聴講者との橋渡しがもっとも課題。	内容が高尚すぎて、どうまとめてよいか分からなかった。それぞれの活動している方たちの話を聞きながら集まって何かを行う公民館ではなく、公民館からそれぞれに発信する場所になるということなのか。そう考えると、公民館研究大会のような内容だと思ってきたので、見直しが必要ではと思った。	公開のPDには、文化センターの問題だけでなく、地域の施設や社教として活動されている方にもパネラーとして発表していただいて、このコロナの中、対策に皆さん苦勞されている様子を知ることができた。文化センターとしては、このコロナ禍で8サークルがやむを得ず解散になり残念です。1日も早くおさまって公民館にみんなが集い学ぶ場所として賑わいが戻ることを望んでいます。

# コロナ感染症災禍の東地区文化センターを語る パネルディスカッション

「サークル活動は密になるから」「文化センターは休館にしないの?」と、この「コロナウイルス感染症」の広がり、芸術・文化活動、運動・レクリエーションなどの集会活動が自粛、中止を余儀なくされています。同じように地域の福祉活動や相互扶助、文化活動も、不便な中で活動をしています。

今年度開館40周年を迎えた東地区文化センターでは、このパネルディスカッションを契機に、「ポストコロナ感染症」の新しい生活、これからの社会を皆さんとともに歩む事業と学習・文化、福祉活動の支援の在り方を考えます。

○とき 3月14日(日曜日) 午後1時30分~4時

○ところ 東地区文化センター 第1集会室

[内容] パネルディスカッション (パネラー・司会紹介)

① 「文化センターが使えないことで」

☆文化センターを利用することが日常の一部となっていた利用者が、自粛、休館となって考えたこと。

市公民館運営審議会委員長 佐々木邦彦さん

② 「文化センター、地域みなさんに伝えたいこと」

☆東原地区社会福祉協議会の健康・仲間づくり事業は中止しても人が集まっている。「不要不急」についてみなさんと考えたい。

東原地区社会福祉協議会 香西伸一さん

③ 「文化センター、地域みなさんに伝えたいこと」

☆障害者福祉施設は文化センターとは30年来の交流がある。コロナ禍でも変わることなく作業所は動いている。地域の皆さんともっと繋がりたい。

社会福祉法人慈湧会業務執行理事  
(緑の家) 草間幸子さん

④ 「コロナ災禍の公民館(文化センター)利用制限で考えたこと」

☆文化センター事業の講師、教育評論家の立場から、公共施設として公民館で学習することの意義を改めて考えよう。

元毎日新聞社記者 長谷川 孝さん

☆司会 社会教育委員会議議長 大串隆吉さん

○定員 40名(先着順)

○申し込み方法 前日までに電話、ファックスまたは直接当センターへ

TEL046-253-0781 Fax.046-253-0789

## パネルディスカッション ～コロナ感染症禍の東地区文化センターを考える～

パネラー：公民館運営審議委員 佐々木邦彦

### 1. コロナ禍で公民館の役割はどう変化したか？

<1> 「つどい、まなび、むすぶ」役割自体は大きく変化していない中で、89サークルのうち、活動自体の中止を余儀なくされているサークルが音楽・運動・料理など半数近くに昇っている。今年度、解散したサークルは8サークル。会わないでいると、どうしても距離が遠くなりコミュニケーション不足になったり、講師の不在などが解散に追い込まれたようである。公民館の利用件数自体も19年度、約2,470件から今年度1,270件とほぼ半減状態となっている。

<2> 利用制限（人数制限）が第1集会室90名、学習室28名など定員の半数となったため、200名近くの受講生を抱えるあすなろ大学では講座参加者を抽選で絞り込むことを余儀なくされている。不幸にして抽選に漏れた受講生にとっては、学習機会を失われたことになり、「学びの場の提供」を役割とする公民館としては、ゆゆしき問題ではないか？

<3> 一方で、コロナ禍で浮かび上がった役割がある。特にゆく場所を失った高齢者は「孤独、孤立」に陥りやすい。高齢者にとって「不要、不急」という言葉は、抵抗感が強い。「学びの場所」の提供という公民館の「場所」性という役割は非常に大きい。単なる物理的な部屋の提供ではなく、学習・読書・おしゃべりなど人としての充実感、楽しみ、開放感、友達作りを助成する役割をもう一度確認しておきたい。

### 2. これからの対策と課題をどう考えるか？

#### <1> 公民館が社会や家庭に入り込んでゆく（直接つながる）オンラインの構築

既にいくつかのサークルやクラブ活動が自主的にzoomアプリなどを利用しオンライン活動を始めているが、公民館事業の一部や講座のオンライン化が望まれる。オンラインだけだと何かもどかしい面もあるうえに、「感染防止」と「学習・仲間作り」「場所性の提供」との両立のために、ある一定回数に数回対面方式を取り入れるハイブリッド型オンラインを検討する。

このことにより若年層の公民館利用の促進や高齢者で身体的に公民館に通えない人達の参加、感染リスクのある高齢者、子育て中の親などのほか、先の抽選で漏れた受講生の家庭での参加が期待できるのではないかと思う。

課題としては、オンラインシステム構築費用、オンライン対応できない家庭に対するタブレット端末の貸与、セキュリティ問題、職員のオンライン化スキルアップなど山積だが、オンライン化はコロナが終息しても継続する学習方式、前例にとらわれず、コロナ禍を良い機会としてチャレンジされるよう期待したい。

## <2> 利用申し込みに関する電子抽選の導入

現在の公民館の利用申し込みについては4月から3ヶ月毎の予約該当月に応じて、申込期間が定められ、3ヶ月毎に開催される利用者代表者による調整会議で抽選結果と調整が行われているが、職員の本件に関わる作業量や利用者代表者の会議に伴う3密を避けられない状況をなんとか回避させる為に電子抽選導入の検討を提案したい。

藤沢市公民館の事例では既存の市公民館施設予約システムを改修する形で、電子抽選を導入したようだが、座間市でも公共施設予約システムとしてスポーツ施設予約が存在しているので、それを発展させて電子抽選の検討をしてほしい。

この検討は市内3公民館の共通のテーマでもあるので、連携を取りながら検討を要するのではないかとおもう。

課題としては、システム開発費、マンパワーなどハードルが高いが、県内に藤沢公民館の事例もあるので、そのノウハウを学びながら検討してみてもどうか。

## <3> 公民館の「場所」性を高める取り組みの強化

上記対策<1>で公民館が社会や家庭に入り込んでゆく（直接つながる）オンラインの構築を提案したが、これだけでは公民館の役割を果たしているとは言えない。先に触れたように高齢者を中心とした「孤独、孤立」から脱却するためには、公民館の「場所」性を高めることが不可欠である。ここでいう「場所」性は、第1集会室や学習室という物理的な場所の提供だけにとどまらない。

「場所」性とは人と人のふれあいを築いてゆけるいろいろな活動含むものであり、寛容な空間（居心地の良い空間）であるという事である。

この「場所」性を高めるためには、キーパーソンとしての職員の存在が不可欠であるとともに、公民館という場所が持っている固有性（公民館に行けば友達に会っておしゃべりができる、家でできなかったことができる）を深める取り組みが必要でありそのための発信も不可欠である。

課題としては公立施設として資金的な限界もあろうが、様々な資源や備品をボランティア的に持ち寄ることも可能ではないかと思う。

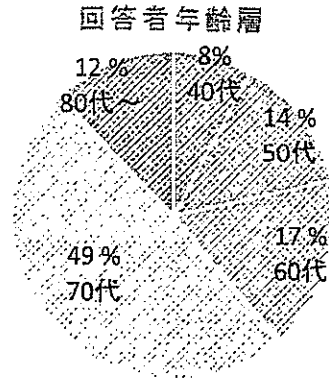
以上

「2020公民館（東地区文化センター）とコロナ禍のこれから」アンケート集計結果

配布数 172名 回答者数 81名 回答率47.1%

配布 12月26日 回収期日 1月22日

0.年齢と性別	人	%
40歳代	6	8
50歳代	11	14
60歳代	14	17
70歳代	40	49
80歳代～	10	12
計	81	100
	人	%
男性	37	46
女性	44	54
計	81	100



Aコロナ禍での文化センター(市公民館)の利用に関して伺います。

1. 日ごろ文化センター(市公民館)をどのように利用していますか

1) サークル活動に参加していますか (いくつ)

	人	%
はい	68	84 (2つ=7人, 3つ=3人, 4つ=3人, 5つ=1人)
いいえ	13	16
計	81	100

2) 主に図書室を利用している

	人	%
はい	18	24
いいえ	56	76
計	74	100

3) 主催事業(イベントや催し物)に参加している

	人	%
はい	38	62
いいえ	23	38
計	61	100

4) ほとんど利用していない

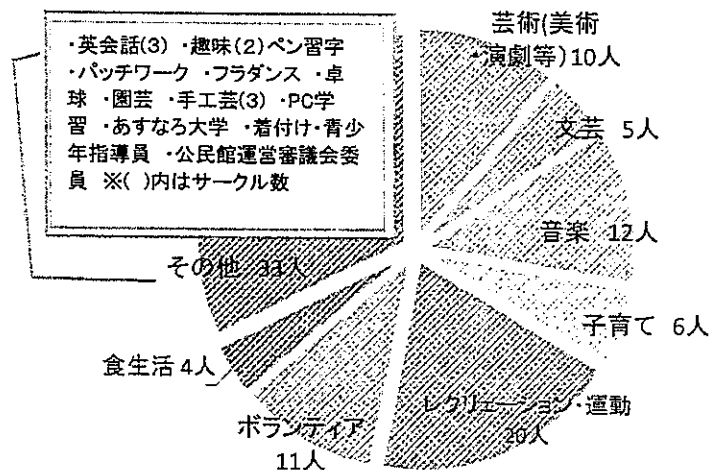
	人	%
はい	11	11

2. 問1の1)で「はい」と答えた人に伺います。

1) 所属するサークル活動のジャンルをお聞かせください。

	人	%
ア)芸術(美術・演劇等)	11	11
イ)文芸	5	5
ウ)音楽	12	12
エ)子育て	6	6
オ)レクリエーション・運動	20	20
カ)ボランティア	11	11
キ)食生活	4	4
ク)その他	33	32
計	102	100

サークル利用内訳



### 3. 文化センター(市公民館)の利用ができなくなって感じたことを伺います

1) サークルのみなさんとの関係が希薄になった	4) コロナ感染の心配がなく安心した
はい 34	はい 25
いいえ 25 59 人	いいえ 33 58 人
2) 楽しみがひとつへった	5) 特に日常に変化はなかった
はい 60	はい 27
いいえ 9 69 人	いいえ 0 27 人
3) はやくサークルがはじまらないかと思った	
はい 48	
いいえ 11 59 人	

#### 4) その他

- ・時々メールしたり体操仲間と歩いたりした。
- ・自粛期間家族とも会わない、寂しい気持ちで過ごさざるをえなかった。感染予防は十分したい。
- ・子供たちが遊ぶ場が減った。どのようにしたら安全に遊べるか考えた。
- ・コロナ禍が早く収まってほしいと閉館の間願いました。・体を動かすことの大切さが分かった。
- ・感染予防に絶対はないので自粛しています。
- ・家から出ることが少なくなりました。新型コロナウイルスをめぐる現在では感染が心配です。

### 4. 文化センター(市公民館)の利用再開後、コロナ禍の影響で活動への気持ちはどのように変わりましたか。

#### 1) 今は感染の心配があるので利用を自粛すべき

はい 43
いいえ 21 64 人

#### 2) サークル活動があると安心する

はい 45
いいえ 20 65 人

#### 3) しばらく利用はしたくない(消極的になった)

はい 28
いいえ 26 54 人

#### 4) その他

- ・図書館が再開されてよかった。
- ・最近の状況だと複雑な気持ちです。
- ・総会、役員会、打ち合わせ等に利用できないので苦慮した。
- ・遵守事項を守り利用中です。
- ・感染の心配があるので対策を取って様子を見ながら活動するしかないと思う。
- ・感染の拡大があってはならないと心配になるが消毒、マスク等会場の市の方の細やかな配慮もあるので気を付けながら利用できることがありがたいです。
- ・自粛すべきか、しないかわからない。ものすごく気を使い何ごろにも対処しようとしている。
- ・コロナ禍を必要以上に気にしていない。用事があれば普通に利用する。



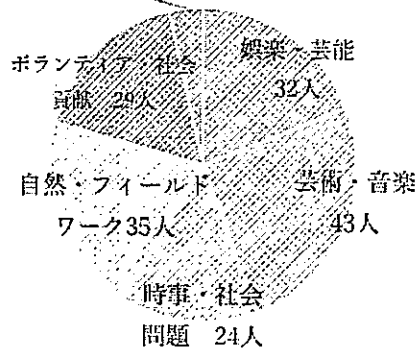
B文化センター(市公民館)の事業(講座や催し物など)に関して

5.これからどのような講座や催し物が必要だと思いますか。(複数回答可)

1) 趣味や教養など

	人	%
ア) 娯楽や芸能など楽しめるイベント	32	19
イ) 芸術(アート)や音楽(演奏)に関する こと	43	25
ウ) 時事や社会問題に関する こと	24	14
エ) 自然や地域にふれるフィールドワー ク(体験の機会)	35	21
オ) ボランティアや社会貢献に関す ること	29	17
カ) その他	6	4
計	169	100

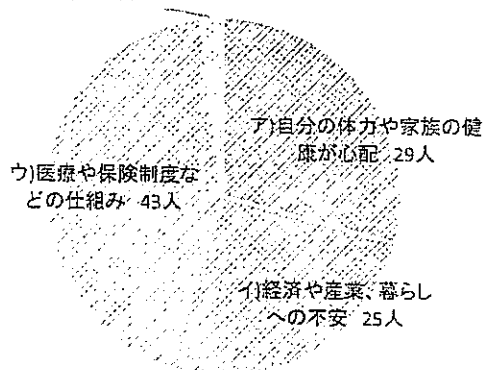
講座・催しの希望1) 趣味や教養等  
その他 6人



2) 身近な生活の課題や社会的な課題など

	人	%
ア) 自分の体力や家族の健康が心配な ので、相談や指導の機会が欲しい	29	29
イ) 経済や産業、暮らしへの不安に応 えるための知識が必要	26	26
ウ) 医療や保険制度などの仕組みと今後 について	43	43
エ) その他	2	2
計	100	100

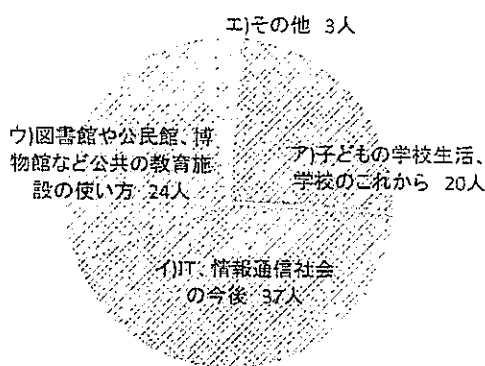
講座・催しの希望2) 身近な生活の課題や社会的課題な  
ど) エ)その他 2人



3) 教育に関すること

	人	%
ア) 子どもの学校生活、学校のこ れからのこと	20	25
イ) IT、情報通信社会の今後のこと	37	44
ウ) 図書館や公民館、博物館など公共 の教育施設の使い方に関する こと	24	29
エ) その他	3	4
計	84	100

講座・催しの希望3) 教育に関する  
こと

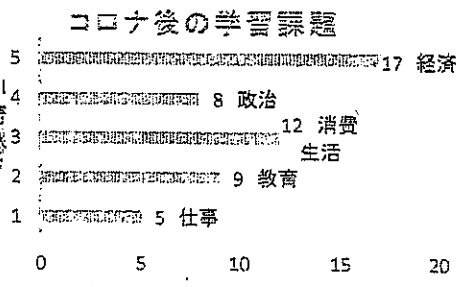
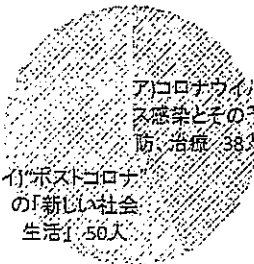


4) “新型コロナウイルス感染症”についての情報・知識

	人	%
ア) 新型コロナウイルス感染とその予防、治療等に関すること	38	43
イ) “ポストコロナ”の「新しい社会生活」に関すること	50	57
計	88	100

	人	%
仕事	5	9
教育	9	18
消費生活	12	24
政治	8	16
経済	17	33
計	51	100

講座・催しの希望4) “新型コロナウイルス感染症”についての情報・知識



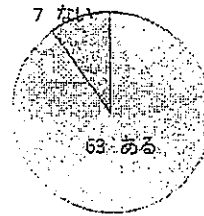
5) 時事として、コロナ災禍の政策や政府の対策について議論する機会が必要。また、マスコミ等報道の在り方について意見を述べる機会(要約)。

コロナ禍の期間で、身の回りに気になる変化がありましたか。(自由記入)

1) コロナのことで不安なことがありますか？

	人
ア) はい	63
イ) いいえ	7

コロナ禍の不安



□1 □2

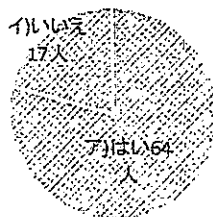
2) コロナ禍の不安を身近に相談できる人はいましたか？

	人
ア) はい	64
イ) いいえ	17

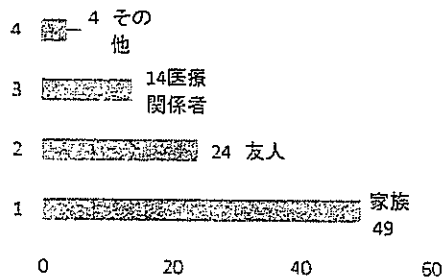
2)-2 それはどなたでしたか？

家族	49
友人	24
医療関係者	14
その他	4
計	91

不安の相談のできる人



不安の相談相手



3) 家庭や家族の中での変化 (困ったこと・続いて欲しいこと)

- a. 東京方面の孫たちには合わない。
- b. 家庭内感染症が怖いので、孫たちとは一緒に生活できない。
- c. 他県に嫁いだ娘、家族に会えない。
- d. 帰省できないため、会える人と会えなくなった。動くことでの感染を恐れる不安、実家の父が亡くなっても施設にいる母が参列できなかった。
- e. 離れて住む家族と気軽に会えないので困る。  
施設入居家族との面会ができない。
- f. 孫たちに合えなくなった。トイレのタオルを別々にした。
- g. 孫娘の成人式が中止になったこと。延期でもよかったのでは？
- h. Zoom, LINE, i-Phoneなどで語る『言葉』と、会って語り合う「ことば」との違いを感じる。会うことの大事さ、不思議さは人はもっと深く受け止めるべき。
- i. サークルの代表等していると外出の率がやや高くなるので家庭の中で、夫が感染を心配して不平を言うことが多くなっている。
- j. 何かと妻はサークル等で役員をしているので出かけることが多く、感染の広がりの中で感染しないか心配になる。
- k. 体力が低下した(フレイル)家族がいる。  
家族とのコミュニケーションが取れるようになった。
- l. 家族に基礎疾患があり、検査・治療に通院している。新型コロナに限らず感染症にも注意して、できる限り予防に努めている。息子家族の来訪も最低限に控え、私自身の外出も短時間にしている。
- m. 外出する機会が少なくなった。  
同居していませんが、息子が看護職に就いています。小学校の子どもがおりますが、やはり同級生から遊べないといわれたそうです。たぶん親からの知識だと思います。そのような偏見のない世の中に大人も子供も正しい知識を持ってほしいです。
- n. 今までほとんど関心を示さなかった除菌、消毒に主人が協力的になった。
- o. 自分が感染していないか心配。  
家族で同じ番組を見るなど団らんの時間が増えた。家にいる時間が増えた分、光熱費なども増えてしまった。
- p. 困ったこと、コロナの最初のころ昨年2月、家族が熱っぽい時診察に行ったら医者への対応が悪かった。
- q. マスクをすることが習慣化した。手洗い、うがいなど。  
離れて暮らす家族との必要な交流も、常に感染のリスクを心配しなくてはならないこと。  
近所でコロナ感染が出たと聞くと不安になる。
- r. ワクチン接種について これは県との連動は当然あるが、接種可能となれば市内病院・クリニックでの体制を整備して欲しい。  
公共料金、夏は冷房、冬は暖房の電気代、水道代などが多めになりました。
- s. 主人がリモートワークが多くなったり残業がなくなり、収入が減り困りました。
- t. 必要以上にコロナを特別扱わず、高リスク者や持病のある人を除いては、普通に活動し、以前の活気が戻ってくれることを願うばかりだ。

4) 地域や社会活動(サークルやボランティアなど)の中での変化(困ったこと・続いてほしいこと)

- a. 消毒等予防対策の意識に差があり心配
- b. コロナ禍の中で文化センターの利用も自粛が言われているが、家にこもっていることも不健康を生むので、その兼ね合いが心配となっている。
- c. コロナにより文化センターが使用できず活動は休止した。感染防止をしたうえで文化センターが使用できるようになり7月頃から少しづつ活動できるようになった。ただ部屋の使用人数が制限され大きな行事、大勢が集まる行事ができなくなっている。
- d. サークル活動ができなくなった。運動不足になったので、新しい体を動かすことを探す必要ができた。
- e. 自分を含め高齢者で持病のある会員が、コロナ感染しないよう感染予防対策の徹底に苦心した。  
サークルに加入しているのですが、不安がぬぐえなくて休んでいます。安心して活動できる日が早く来ることを心から待っています。
- f. 在宅ワーク、ウェブ合奏練習。

公民館が閉館したこと。公共の場であるので閉館は極力避けるべき。

活動の拠点であり休館等の場合は場所探しに苦慮しております。

会議、事業など開催が難しい。

g. マスコミのあおりすぎですべての活動が停滞している。

いつもマスクをつけているため、特に夏、運動するのに辛かった。サークル内で接触せずに活動する工夫をした。

自治会の行事がなくなり、会食等が出来ず残念です。

h. サークルは制約なく続けたい。

i. サークル活動時感染への不安もあり、メンバー全員が集まるのが難しかった。公共施設の利用ができないとファミレスとかで会議等するしかない。

j. サークルで「物を作る」場合、三密を注意する状況にあり、仲間に細かい作り方の指導、教え合い等接することが心配され、やりにくいなあと思うようになっている。

k. 買い物などを用心して参加者が少なくなった。

コロナ感染で声を出すことがなかなかできず、不満がたまってきている。

サークルの人それぞれ、意識のレベルに大差があり、会議の代理出席等も気軽に頼めない。

オンライン会議や講座を企画したこと。正しい感染予防対策の知識(オーケストラによる飛沫感染実証実験結果等を参考にした。

外出を自粛している。運動不足が心配。

l. 学校現場では地域からボランティアの方に来ていただいて体験活動を行ったり、子どもたちが地域に出て行ったりしていたがそれが出来なくなった。

m. 自粛ばかりしていると健康でなくなるので、サークルやボランティアには気を付けて出席している。

n. 活動ができるための一人ひとりの知恵や工夫がもっと必要ではないか。沈黙して引きこもっているのが最悪。

コロナで身近になった“政治”の貧困さに声を発するべき・活動ができなくなり対人関係がだんだん薄くなってきた。

オンラインで行ってるが、やっぱり対面で行うのが人間関係には良いと感じた。

会議をする場所がない。

たくさんの人がいると、たくさんを感じ方、考え方があります。一つの活動、行動にまとめるのは大変です。

コロナ禍の中で8ヶ月の閉館から再開されたときのサークルの仲間の笑顔を見られ、もっと健康に気を付けるようになった。

コロナ対策のルールを守り、感染しない、させない社会を作っていくこと。・今までのように堂々と気持ちよくやりたい。ニュースなどで活動が制約されること。

o. 特にない。政府、県、市の対応が問題だ。GoTo~とかで感染者を増やした責任を政府はとるべきだ。

歌声サークルを作って活動を始めていましたが、コロナ感染のリスクを心配するメンバー(高齢の方)が多く解散になりました。再開を希望していますが、コロナの現状やモチベーションの低下で難しくなっています。

## アンケート素描

◇回答数 81名 ◇配布数 172名 ◇回収率 47.1%

・配布対象 公民館利用者、芸術・健康文化活動をとおして社会教育事業に関係する市民の方を対象とした。

- ①文化センター利用サークル代表者
- ②社会教育関連の審議会等委員(社会教育委員、公民館運営審議会委員)
- ③市文化協会傘下団体代表者等
- ④東原コミュニティセンター管理運営委員会委員

### 1. 回答者の属性から見られる傾向

年齢構成: 公民館利用者、他文化協会所属団体への配布は代表者に向けて行った。結果80%が60歳以上となった。 :50歳代以下は20%に留まった。

コメント: 地域での文化活動、社会活動でリーダー的な役割につかれる方は、60歳以上が多数であることが分かる。

### 2. 問Aの回答から見られる傾向

- ・センター利用者で複数のサークル活動をしている人は4分の1であった。
  - ・体操、運動系のサークルの多くは、コロナ禍でも施設利用を希望している。
  - ・音楽(合奏)のサークルでは、活動を継続するため、リモートを含めて練習を続けることに苦心している。また、可能な限り活動を行いたい希望が多い。
  - ・利用サークル以外の回答では、図書室の利用(閉館時を除き)ができたことを好感している。
  - ・問3)「利用できなくなって感じたこと」、問4)「利用再開後」の活動への気持ちの変化に対する回答からは再開を望む声とサークル活動への参加で「安心した」との声が多い。
- コメント: サークル活動でのコミュニティが、利用者の日常の生活の一部となっていることが表れている。
- ・男性高齢者の回答では、約3分の1が「これからも公民館での活動は自粛すべき」と答えている。全体としては3分の2の回答が「できる限り開館」を希望している。

### 3. 問Bの回答から見られる傾向

今後の事業への要望は、①音楽や芸術、②自然体験や野外でのフィールドワークが多数を占めた。

同時に複数回答を分析すると、第2の選択として③時事・社会問題と④「ボランティア・社会貢献」が選ばれている。[B-5-1)]

コメント: コロナ禍での長期に亘る活動自粛や外出の自粛によるネガティブな生活観から、芸能・芸術の鑑賞、参加の希望が求められていた。同時にこれからの政治・経済社会福祉への関心が高まっていることが伺えた。コロナ禍の社会的な課題を想定した「関心のある講座テーマ」、問2)ではイ)「医療、保健制度」が、問3)ではイ)「IT、情報通信社会のこれから」が関心を集めた。

コメント: 4)の「コロナ感染症」に関したテーマを含めて、健康に対する意識が高まっていること。併せて災禍に打撃を受けた経済・産業、疲弊する行政や公共福祉の制度について知る機会が求められている。

### 3-2. 記述回答から見られる傾向

#### 3) 家庭や家族の中での変化(困ったこと・続いて欲しいこと)

コメント: 家庭生活では精神的ストレスを書かれた方が多い。主に①一人になる時間が増えた事による孤立感、疎外感、②家族、会いたい人と会えない焦燥感と心配、③家族の仕事や経済的な影響による変化への対応の3点が主に取り上げられていた。

#### 4) 地域や社会活動の中での変化(困ったこと・続いてほしいこと)

コメント: 運動などのサークル活動をする利用者からは、健康・精神衛生上の観点から集まって活動したいと希望が多く見られた。代表者からの回答が多いことに関係しているからとも考えられる。併せて文化センターや公共のスペースは、休館を最小限にとどめて途切れぬ施設提供を求めているという意見が寄せられている。公共施設での個人の自由意志への配慮について触れる意見がある。

参考資料

東地区文化センター利用に関するデータ・概要コロナ禍のサークルの減数・理由等

1部屋数 大会議室(ホール) 1、会議室 2、小会議室 1、和室 1、実習室 1、保育室 1、図書室

2使用料 有料(減免規定あり) ※社会教育活動、自治会、地域福祉活動等は減免

3利用状況 ※令和元年と令和2年度の比較(共に4月～翌年2月末までの集計、休館の5、6月は除いた。)

利用件数(件)	令和元年	令和2年
社会教育関係	2,380	1,219
その他の利用	89	51
合計	2,469	1,270

4定期利用サークル数

令和元年度 97サークル、協会・連盟等組織 9

令和2年度(末) 89サークル、協会・連盟等組織 9 ※年度内解散したサークル数 8サークル

・解散したサークル 分野 趣味・手工芸 1、音楽関連 2、運動(体操) 2、語学 1、料理 2

素描

東地区文化センターの定期利用サークル数は、この10年間をみると、少ない年で92団体(H26)、最大の年で99団体となっていました。解散、新規の増減がありますが、定期利用ではない社会教育、社会体育関係団体を合せて毎年100サークル前後での推移となっています。

また、定期利用サークルの総会員数は平成22年(2010) 1,142人、令和2年(2020) 889人とこの10年間で20%強の減員です。

今年度はコロナ禍での活動の自粛による停滞の影響が強く、解散したサークルは8サークルとなり、新年度に向けさらに増えることが予想されます。

・解散したサークルからの聞き取り 趣味・手工芸 1、音楽関連 2、運動(体操) 2、語学 1、料理 2

A)運動サークル 会員の高齢化が進んでいたが、集まって運動ができなくなったことを機会に退会者が数名出てしまった。人数が減って会も維持できないので解散する。

B)手工芸サークル 指導者が高齢のため遠方からお願いしている。コロナ禍で指導に来られないとのことで、継続が難しくなったため解散する。

C)語学サークル 講師が外国人のため、コロナ禍で来ることができなくなってしまった。会員間でもコロナ感染を気にする会員が多く、解散を決めた。

D)運動サークル 体育館、東地区文化センターの休館により、集まって活動できなくなったので、解散。また機会があれば集まりたい。(各自活動中のサークルをさがすなどする)

E)音楽サークル 楽器の演奏に関するコロナ禍のガイドラインに対応することが困難と判断。解散する。

F)料理サークル コロナ禍の調理、会食が困難となり、長期活動ができないと判断して、一端解散する。

ご回答いただいた皆様に、心よりお礼申し上げます。

文責・問合わせ等 座間市立東地区文化センター

Tel.046-253-0781

## 令和3年度座間市公民館事業計画

(単位：千円)

区分	事業名	実施期間	事業内容	基本 施策	予算額
成人学級	親と子が共に育つ教室	9～12月	子育て中の親を対象とした、家庭・子育て・社会参加等の基礎学習。	4-1 4-2	446
	パパと遊ぼう	7月・10月	父親の育児を促すためにこどもの発達と月齢に応じた父親ならではのこどもの遊び方を学ぶ。	3-3 4-1	10
	まちづくり・ひとづくり講座	11月	歴史・文化・芸能等について学び、市民参画のまちづくりを考える。	2-3	0
成人一般	暮らしと健康講座	9～10月	心身ともに健康に暮らすための学習。	1-1	61
	暮らしの実用講座	1～3月	日常生活が豊かになるための学習。	1-1 6-1	80
	パソコン講座	10・2月	ワード入門・エクセルの基礎2講座を開催。	3-1	279
	婚活講座	7月	地域課題でもある晩婚化・少子化対策として未婚の男女に出会いの場を作り公民館を知ってもらう。	3-1 3-3	119
	保育ボランティア養成講座	2～3月	課と3館共催で保育ボランティアの養成を図る。	1-1 4-1	20
少年少女	ふれあい自然科学クラブ	年間	自然や科学に親しみながら共同学習の場を得る。	5-1	77
	夏休みクラフトスクール	7月	夏休み期間中に児童を対象とした工作教室を開催。	5-2	10
	親子で郷土料理教室	12月	料理を通し座間の食文化(伝統料理)を学び、異年齢間の仲間づくり。	2-3	10
催しもの等	コミュニティー祭 (公民館まつり)	5月	利用者の一年間の成果の発表と地域住民とのふれあいを図る。	2-3	200
	春の子どもフェア	3月	様々な催しを提供し、情操教育に努めるとともに、世代交流と仲間づくりの場とする。	5-1	15
	こども夏まつり	8月	地域の子どもと企画・立案をし、夏休みの一日を楽しく過ごすことで、世代交流と仲間づくりの場とする。	5-1	50
	公民館コンサート	11月	地域の人と楽しむコンサートを開催し、癒しの場を提供する。	2-1	35
	子育てサロン	年間	乳幼児をもつ親が自由に参加して、交流・情報交換する場所を提供する。	4-1 4-2	42
	おはなし会	年間	おはなしを通して子どもの豊かな心を育てる。	5-1	42
	本はともだち	年間4回	絵本・児童書の紹介と普及。	5-1	30
	おもちゃ病院	年6回	おもちゃの修理を通じて物を大切にすること、(もったいない)の心を育てる。	—	10
	地域学校との交流会	随時	養護学校と地域交流を図る。	6-2 7-5	—
会議他	市立公民館運営審議会	随時	公民館の活動、運営について調査審議する。	9-1	857
	利用者代表者会議	随時	公民館の利用等について協議する。	9-2	—
	図書室その他の活動	年間	貸し館、図書室活動、その他	—	3,125
刊行	「親と子が共に育つ教室」等まとめ誌発行	年1回	事業の紹介及び受講生の感想等刊行物を発行する。	—	23
施設	維持管理経費	年間	館内管理委託、修繕、光熱水費等	—	12,406

### R3 北地区文化センター事業計画

(単位：千円)

区分	事業名	実施期間	事業内容	予算額
成人学級	いきいき学級	11～12月	高齢者への学習活動と交流の場を提供する。	50
	子育てわくわく学級	5～7月	子育てについての学びと共に親の自立をめざす。 (0～幼児)	242
成人一般	北文チャレンジ講座	未定	不得意分野にチャレンジする機会を作ったり大人の趣味を深めたりする講座	45
	北地区講座	年9回	文化や歴史、時事問題などをテーマに学ぶ講座	45
	パソコン入門講座	8、11月	ボランティアクラブの協力を得て、パソコン入門講座を2コース開設する。	36
	スマートフォン体験講座	未定	市内通信業者の協力を得て、スマートフォン体験講座を開設する。	-
	にほんご教室	年間	在日外国籍市民が日本で日常生活に必要な日本語を学習する機会を提供する。	20
	大人のための朗読会	年3回	大人に文学作品等の朗読を通じて理解を深める。	60
	音楽講座	年3回	音楽の種類や歴史を学び、楽しむ。	80
少年少女	親子で米作り隊	6～12月	農村として長く発展してきた座間の風土を、稲作を通して体験し、自然、家族とのふれあいをする。	-
	キッズよさこい	2、3、4月	よさこい鳴子おどりを学び、地域の祭りに参加することにより子どもの仲間づくりをする。	36
	フリースペース	年間	不登校を語る会の協力を得て、不登校の生徒・親の相談の場として、毎週火、木曜日の5時15分から7時、図書室を開放する。	40
	夏休み作品応援	7、8月	夏休み期間中の児童、生徒の自由研究、学習支援を行う。	14
	親子(料理教室)講座	1月	親子で共に料理を覚え家庭に持ち帰ることで家庭の絆を深めることを目的とした講座。	20
	親子手話講座	7月	聴覚障がい者を指導者に迎え、親子で手話を学びながら聴覚障がい者との交流をする。	30
その他	クリスマスジャズ	12月	子どもから大人まで、クリスマスに因んだ曲をジャズで楽しむ。	60
	幼児の体験講座	2月	幼児を対象に英語や音楽などを体験する講座	20



区分	事業名	実施期間	事業内容	予算額
催し物等	クリスマス会	12月	おはなし会や人形劇で楽しいクリスマスの日を過ごす。	10
	子どもおはなし会	年間	子ども達に、絵本やおはなしの楽しさを知ってもらう。	40
	うたって♪あそぼ	年間	親子で朗読や歌を楽しみ情緒を育む。	20
	子育てサロン	年間	子育て中のお母さんの居場所を地域の方の力を借りてサロンとして開設。	20
	おもちゃ病院	年6回	おもちゃの修理を通じて物を大切にすることを学ぶ。	12
会議等	いちにち子どもランド	7月	地域の子ども達と館利用サークルの交流をはかり、子ども達のセンターへの理解と親しみを深める。	50
	北地区文化祭	10月	館利用サークル等の一年間の成果発表と交流の場。	200
	利用団体等代表者会議	4、9月	センターの利用等について協議する。	-
	市立公民館運営審議会	随時	公民館の活動、運営について調査審議する。	-
	その他	年間	その他	3,824
施設	設備整備事業費	年間	施設備品（講座室、ホール）	754
	維持管理経費	年間	館内管理委託、光熱水費等	14,124

R3年度

## 東地区文化センター事業計画

(単位：千円)

区分	事業名	実施期間	事業内容	基本施策	予算額
講座教室など	あすなる大学	年間	高齢者の自立した学習の場。	6-1	150
	幼児をもつファミリー学級	9～12月	子育て中の母親・父親たちの仲間作りと子育てについて学ぶ。	4-2	205
	地域福祉講座	9～12月	家庭・地域での福祉の課題を、相互扶助の力で解決する「場所」づくりを考える。	2-1	50
	環境講座	未定	環境問題について学ぶ。	3-1	20
	木版画教室	11月	年賀状の作成をとおして木版画の楽しさを知る。	1-1	20
	パソコン講座	6月・9月・1月	パワーポイント講座	3-1	54
			ワード入門講座		
			エクセル入門講座		
	スマートフォン講座	12月	スマートホンの操作について学ぶ。		10
	消費生活講座	1月	消費者教育に関する取組を推進するための講座。	3-1	20
	親子自然体験教室	1月	親子でアウトドアライフを楽しむ。	5-1	20
	日曜科学教室	毎月第3日曜日	小学校低学年の子どもが、実験や工作をとおして科学の楽しさを知る。	5-1	32
	わくわく科学教室	7月	科学実験を楽しみながら学習する。 (仮) ペットボトルロケットを作ろう	5-1	30
	ボランティア養成講座	2～3月	講座の保育を担うボランティア養成講座(3館)	4-1	20
	サークル企画講座	2～3月	利用サークルと協力して市民向け講座を実施	2-2	20
ひがしフリースペース・教育講演会	毎週水曜日	不登校の子どもたちの居場所づくりと学習支援	5-1	50	
だんだんリビング	毎月火又は金	乳幼児を持つ保護者の仲間づくりと情報交流をすすめる。	4-2	24	
エクステンジ	毎月第3水曜日	不用品の交換をとおして、リサイクルへの関心を高め、併せて地域の交流の機会とする。	3-1	24	

	おもちゃ病院	隔月第4 土曜日	壊れたおもちゃの修理をとおして、物を大切に する心を育てる。	3-1	12
	子どもおは なし会	隔週 火曜日	幼児におはなし、手あそび、紙芝居などを 楽しんでもらう。	2-2	24
催しもの等	サマーアイ ランド	7月	夏休みの一日を地域の仲間と楽しむ。	2-2	50
	みんなでつ くる文化祭	10月	利用者と地域の人たちの一年間の学習成果の 発表と交流	2-3	200
	ひがしクリ スマス会	12月	クリスマス会で人形劇やおはなしを楽しむ。	2-3	20
	春のお楽し み会	3月	春休み向けコンサートを行う。	2-3	60
	館ボランテ ィア協力	年間	中庭、館内の植栽手入れ等のボランティア 協力	8-1	20
	ひがし映画 会	年間 不定期	視聴覚を通じて、教養深める	3-1	-
	親子向け講 座	4月	親子でボードゲームを楽しむ	4-1	15
	利用団体等 代表者会議	4・9月	センターの利用等について協議する。	9-2	-
	市立公民館 運営審議会	年間	公民館の活動、運営について調査審議 する。	9-1	-
	管理運営補 助員設置事 業	年間	貸し館、図書室活動、その他		-

## 新型コロナウイルス感染症に伴う公共施設の対応

2021年3月22日更新

緊急事態宣言解除に伴い、公共施設の利用などを次の通り対応します。詳しくは、各問い合わせ先にお問い合わせください（令和3年3月22日更新）。

施設名	対象期間	対応	問い合わせ先
コミュニティセンター（全8館）	1月12日（火）～3月21日（日）	開館時間午前9時～午後8時	立野台コミュニティセンター TEL046(255)0815 新田宿・西ツ谷コミュニティセンター TEL046(257)4871 小松原コミュニティセンター TEL046(257)9640 東原コミュニティセンター TEL046(255)9770 相模が丘コミュニティセンター
	3月23日（火）から	開館時間午前9時～午後9時	TEL046(258)3000 相武台コミュニティセンター TEL046(258)3001 ひばりが丘コミュニティセンター TEL046(257)7698 東原コミュニティセンター TEL046(257)7210
ハーモニーホール座席	1月12日（火）～3月21日（日）	開館時間午前9時～午後9時 ※利用に制限があります。詳しくは同館ホームページをご覧ください。	ハーモニーホール座席 TEL046(255)1100
	3月22日（月）～4月18日（日）	開館時間午前9時～午後9時 ※利用に制限があります。詳しくは同館ホームページをご覧ください。	
市公民館 北地区文化センター 東地区文化センター	1月12日（火）～3月21日（日）	開館時間午前9時～午後8時 ※利用に制限があります。詳しくは各館へお問い合わせください。	市公民館 TEL046(255)3131 北地区文化センター TEL042(747)3361 東地区文化センター TEL046(253)0781
	3月22日（月）～31日（水）	開館時間午前9時～午後9時 ※利用に制限があります。詳しくは各館へお問い合わせください。	
図書館	1月8日（金）～3月21日（日）	現状通り ※利用に制限があります。詳しくは同館ホームページをご覧ください。	図書館 TEL046(255)1211
	3月22日（月）から	現状通り ※館内滞在時間など利用に制限があります。詳しくは同館ホームページをご覧ください。	

## 令和3年度 公民館運営審議会委員年間スケジュール

○館長・公民館運営審議会委員等研修会 年1回

(館長・職員等研修会の2回目と合同)

期 日 未定

場 所 寒川町民センター

○第63回神奈川県公民館大会

期 日 令和4年1月下旬

場 所 川崎市中原市民館

第43回全国公民館研究集会・第61回関東甲信越静公民館研究大会

山梨大会 令和3年10月28日(木)・29日(金) 今回は参加しま

せん。